

情報共有共通ツールに



道は全道8圏域に分けて認知症疾患医療C(地域型)整備を進めており、現在6圏域・12病院を指定。各センター長が世話人となって設置している「北海道認知症疾患医療センター」懇話会が26日開かれ、認知症地域連携パスの重要性、普及するための方策などが話し合われた。

認知症医療各圏域内道患疾

道内各認知症疾患医療センターは26日、本人や家族、地域の関係者・関係者の情報共有を目的に、中空知圏で活用されている認知症地域連携パス「支えあい連携手帳」を導入する方針を固めた。各センターの意見をもとに、連携手帳の内容を充実。地域で活用しながら検証し、道内センター共通ツールとしていきたい考えた。

地域連携パス「支えあい連携手帳」導入へ

「懇話会」が26日開かれ、認知症地域連携パスの重要性、普及するための方策などが話し合われた。連携手帳はNPO法人中空知・地域で認知症を支える会が製作。理事長は砂川市立病院認知症疾患医療センター長を務めており、6月から同病院精神科外...

内容充実、活用しながら検証

来、もの忘れ外来受診者の家族に配布、約190人に手渡した。介護関係者や院外薬局も活用しているという。女性がバッグに入れて持ち歩きしやすいA5判サイズの連携手帳は▼基本情報▼介護状況シート▼薬剤シール▼認知症進行度チェック表▼情報共有シート▼日記シート▼MRIチェックシート(検査実施可否)など構成。医療・介護情報などをまとめた「マイカルテ」と位置付け、パ...

潜在資格者 復帰サポート

再就職支援研修を

潜在有資格者の現場復帰をサポートするため、道介護福祉士会は23日、本年度新規事業「潜在的介護福祉士再就職支援研修」を札幌市内で開いた。参加者は制度や現場の動向、トピックス等に関する講義のほか、現任スタッフの手ほどきを受けながら基礎知識を確認し、道内福祉士会からの研修金を受け、同市外で4人、10年程度ある▼親



東京都渋谷区にある事務所の壁に、夢をかなえて満面に笑みを浮かべる利用者の写真がたくさん飾られている。「旅はリハビリ。旅を

NPO法人日本トラベルヘルパー協会

篠塚 恭一 理事長



トラベルヘルパーは行に特化した「あ・え介護技術と旅の業務知識を備えた外出支援の専門家として、高齢者要介護度2後半。故郷や障害者らの身近なお出かけ、旅行をサポートする認定資格だ。旅行会社添乗員を経て1995年に介護旅

旅はリハビリ、気持ち前向きに

という多くの介護従事者、介護者の声を受け、2006年にNPO法人を設立して養成講座をスタート、修了者は300人に迫るという。旅行先の現地トラベルヘルパーに引き継ぐ方式にも対応。観光や食に強みを持つ本道に可能性を感じており、「介護一本やりではなく、ダブルワークで制度外サービスを手がける発想もあってよいのでは」と提案する。問い合わせは☎03(6415)6688。

道内10 介護費 4前

道国保

道内8日 分介護給 月比11倍 増の31

1つの主 関係機関 報共有を ツトを奉 懇話会 イスカ... 「二人暮 や介護関 把握でき

インダー式にして生涯 利用できるよう工夫し た。

連携手帳の概要を説明した大辻誠司同病院 認知症疾患医療C精神 保健福祉士は「在宅、病 院・施設問わずにフル ステージで利用でき、

一、行政